

コールセンターからの小さなよみもの

こよみ セレクション



コールセンターでは、これまでたくさんのご質問をいただき、「こよみ」で回答させていただきました。

そこで、今まで発行してきた「こよみ」の中から、投資信託へのご理解を深めていただけると思うものを厳選しました。

よくあるご質問の一例

- 純資産総額が大きい投資信託の方がいいの？
- 基準価額が0円になってしまうことはあるの？
- 分配金が下がったけど、大丈夫？
- 個別元本が下がるって、損してるってこと？
- 投資信託っていつ購入したらいいかわからない

等・・・



※各号の解説は、それぞれの作成時点の情報に基づいている点にご留意ください。

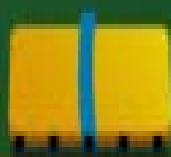
日興アセットマネジメント

日興アセットマネジメント 株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号
加入協会: 一般社団法人 投資信託協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、日本証券業協会

□当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託の仕組みについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。□投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

目次

純資産総額とは？	2014年2月	Vol.62	P.3
基準価額に割高・割安ってあるの？	2015年1月	Vol.72	P.7
ファンドの基準価額が 0円になってしまうことはあるの？	2015年12月	Vol.83	P.9
毎月分配型ファンド、買うなら決算の前？それとも後？	2011年6月	Vol.30	P.11
「分配金受取りコース」と「分配金再投資コース」 どっちがいいの？	2016年1月	Vol.84	P.15
「毎月分配型」と「1年決算型」どっちがいいの？	2016年2月	Vol.85	P.17
「分配金」と「基準価額」のバランスって？	2012年10月	Vol.46	P.19
分配金だけをみて、ファンドを判断していませんか！？	2010年11月	Vol.23	P.23
元本払戻金(特別分配金)を受け取ったら、 個別元本が低下。これは“損”なこと！？	2012年2月	Vol.38	P.27
投資のタイミングに迷ったら・・・	2016年9月	Vol.92	P.31
為替ヘッジ！？為替予約！？ 為替ヘッジプレミアム！？！？	2009年11月	Vol.11	P.33
為替変動のリスクの低減をめざすファンドの仕組みとは？	2012年7月	Vol.43	P.37
リスクは怖いもの？	2016年6月	Vol.89	P.41
割高・割安を判断する「PER」と「PBR」	2016年7月	Vol.90	P.43
金利変動に対してどれだけ債券価格は動くのか？	2017年2月	Vol.97	P.45





2014年2月28日

コールセンターからの小さなよみもの



Vol.62

純資産
総額

純資産総額とは？



コールセンターには純資産総額の増減についてのお問合せを多くいただきます。お客様の中には純資産総額の大きさが、パフォーマンスの判断材料として何よりも重要だと考えている方もいらっしゃいます。純資産総額ランキングの順位が下がったことをご覧になって、「このファンドはパフォーマンスに見込みがないのではないかな？」といったお問合せをいただくこともあります。

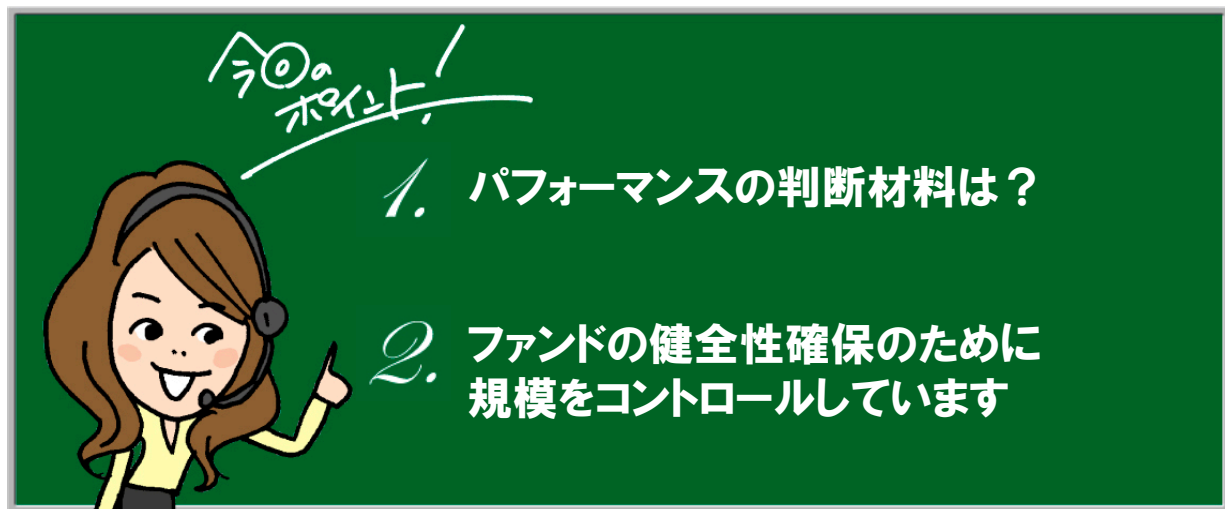
そこで今回は「パフォーマンスの判断材料」と「ファンドの資産規模」について、次の2点を押えていただきたいと思います。

1. パフォーマンスの判断材料は？

2. ファンドの健全性確保のために規模をコントロールしています



コールセンターからの小さなよみもの



1. パフォーマンスの判断材料は？

お客様から、パフォーマンス(運用成果)を判断する際に、「純資産総額の動き」と「基準価額の動き」、どちらが適切なのかというお問い合わせを多く受けますので、この2点を一度整理してみたいと思います。

純資産総額は、ファンドが保有する有価証券の時価総額などから、信託報酬などの手数料(コスト)を差し引いたものです。この純資産総額は、主に以下の2つの要因により変化します。

1) ファンドが保有する有価証券の時価の変動

ファンドが保有する株式や債券などの有価証券は日々市場などで取引が行なわれることで価格が変動しています。純資産総額を計算する際には、株式では各取引所の終値を原則として用いています。また、海外の資産に投資するファンドでは、為替レートの変化の影響を受けます。

2) ファンドの購入や換金

お客様がファンドを購入すると、その購入代金がファンドの運用資産の中に繰り入れられ、純資産総額が増加します。反対に換金の場合、その換金代金がファンドの運用資産から引き出され、純資産総額が減少します。

このように、純資産総額は有価証券の時価の変動に加えて、お客様の購入(換金)によっても増減することになります。

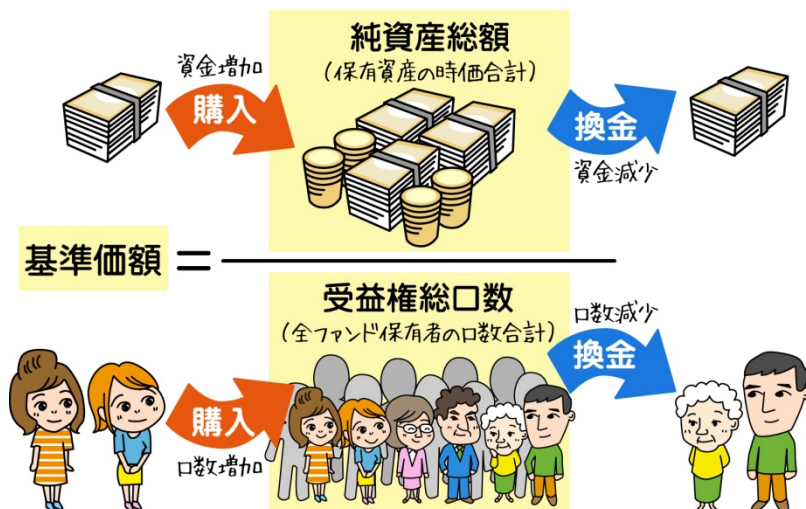


コールセンターからの小さなよみもの



一方で、基準価額は、原則としてファンドが保有する有価証券の時価の変動の影響で動きます。基準価額は、「1口あたりの純資産総額」であり、純資産総額を受益権総口数(全ファンド保有者の口数合計)で割ることで算出されます。下記の図で説明すると、ファンドの購入資金が入ると純資産総額(分子)が増加し、同時にそれに見合う受益権総口数(分母)も増加するので、保有する有価証券の価格などに変化がなければ、基準価額に変化はありません。

つまり、ファンドが保有する有価証券の時価の変動のみが反映される「基準価額」でパフォーマンスを判断することが大切です。



2. ファンドの健全性確保のために規模をコントロールしています

多くのファンドでは、純資産総額や総口数に上限や下限を定め、ファンドの規模をコントロールしています。

ファンドの上限額は、投資対象の市場規模や流動性などから、健全性の確保のために「信託金限度額」として定めています。市場規模が1兆円の資産に対して、ファンドが8,000億円も保有していた場合、市場の流動性が少なくなり、そのファンドの売買によって資産の価格が大きく上下してしまい、運用が難しくなる可能性があります。このような状況は健全性があるとはいえません。



コールセンターからの小さなよみもの

そのため、定められた上限額に近づく、通常、ファンド購入の申し込みの受け付けは停止されますが、それによる運用上のマイナスはありません。ファンドマネージャーはファンドの規模に応じ、投資先の変更や資産配分の見直しを行ない、それまでの運用が継続できるようにしているからです。もちろん、ファンドが保有する有価証券の時価の変動の影響を受け、基準価額は継続して算出されます。

なお、信託金限度額は、ファンドの運用開始時に、投資対象の市場規模などをもとに判断したもので、市場規模が拡大した場合などは信託金限度額も引き上げられることがあります。

一方、ファンドの下限の基準として、「繰上償還」に関する決まり事があります。ファンドの純資産総額が減少し、ある一定規模を下回り、方針に沿った運用が難しいと運用会社が判断した際には、ファンドを保有する方に、運用終了についての賛否を確認した上で、運用を終了することがあります。

なお、純資産総額が縮小傾向になったとしても、それだけで基準価額が値下がりすることはありません。

ファンドの純資産規模やその増減だけで、運用の良し悪しを判断することは出来ません。純資産総額と基準価額の違いを理解し、ファンドのパフォーマンスをチェックすることが大切です。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404



facebook



で、経済、投資の最新情報をお届けしています。

こよみ



2015年1月30日

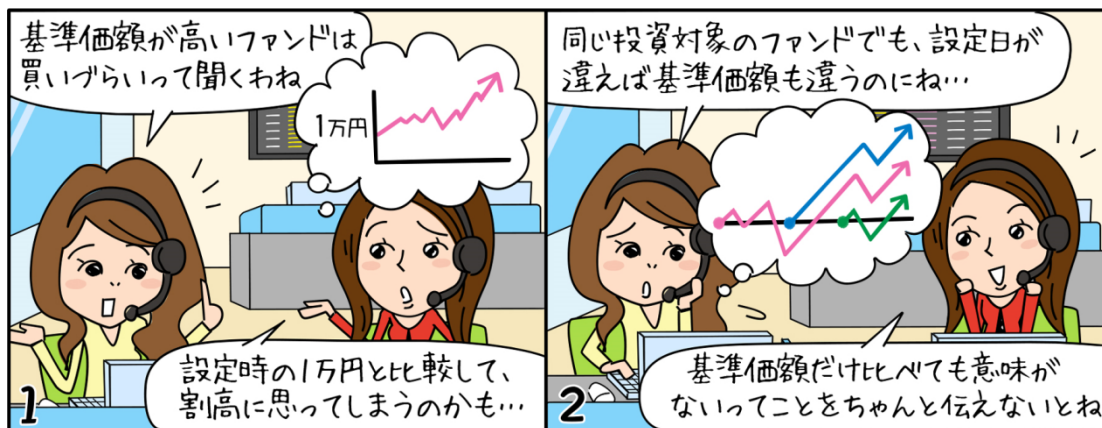
コールセンターからの小さなよみもの



Vol.72

基準
価額

基準価額に割高・割安ってあるの？



ファンドを購入する際、そのファンドの基準価額が気になると思います。最近は円安・株高が続いており、多くのファンドの基準価額が値上がりしました。このような中、コールセンターには、ファンドの購入を検討しているお客さまから、「基準価額が高いファンドは、割高な感じがして買えない」といった声をいただきますが、果たして基準価額に割高・割安はあるのでしょうか。そこで今回は、基準価額に割高・割安があるのか押えていただきたいと思います。

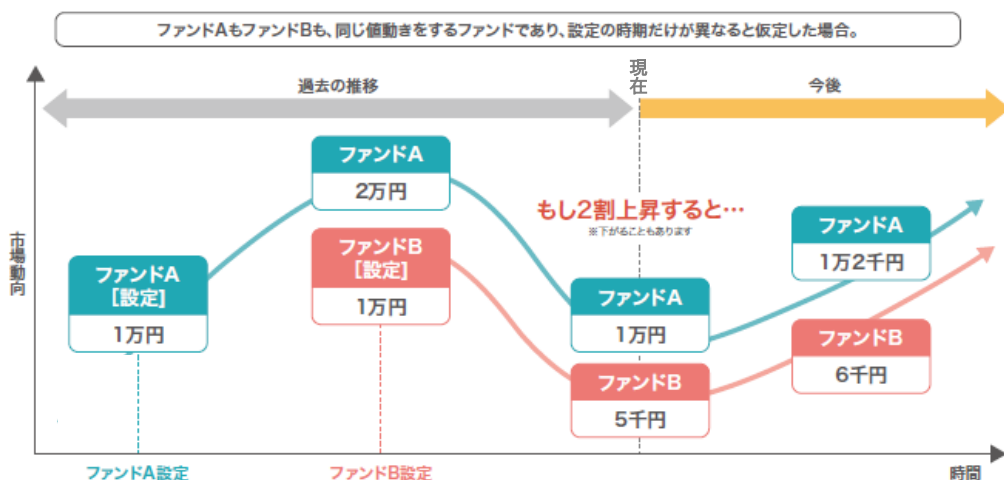




コールセンターからの小さなよみもの

基準価額が割高・割安と感じる背景には、「基準価額が高いと、これ以上あがらないのでは」といった考えがあるようですが、この考えは本当に当てはまるのでしょうか。例えば、投資対象が同じファンドAとBがあったとします。現在、ファンドAの基準価額が1万円、ファンドBが5千円だとします。一見、1万円を下回っているファンドBの方が割安に感じるかもしれません。しかし、結論から言うと、どちらも同じです。なぜなら、ファンドAもBも同じ投資対象で運用しているので、投資対象が上昇すれば、両ファンドの基準価額も同じ割合で上昇するからです。仮にファンドAの基準価額が1万円から1万2千円に、ファンドBが5千円から6千円に上昇した場合、どちらも変化率は同じ2割です。基準価額は「変化幅」ではなく、「変化率」で見るのが大事です。運用をスタートしたときのマーケット環境によって基準価額は異なるので、単純に基準価額だけで比較しても意味がないというわけです。

<設定時期と基準価額推移についてのイメージ図>



※値動きを仮定したイメージであり、何らかの商品の運用実績を示唆するものではありません。

つまり、ファンドの運用成果は、購入後のファンドが投資している資産価格の上昇、下落によって決まります。企業の価値と株価との関係と異なり、ファンドの場合は常に投資対象が入れ替わっているため、過去の基準価額の動きと将来の成長期待とは切り離して考えるべきです。基準価額だけを見るのではなく、ファンドが投資している資産の見通しやマーケット環境などを見て、購入を検討されてはいかがでしょうか。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

□当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託の仕組みについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。□投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



2015年12月30日

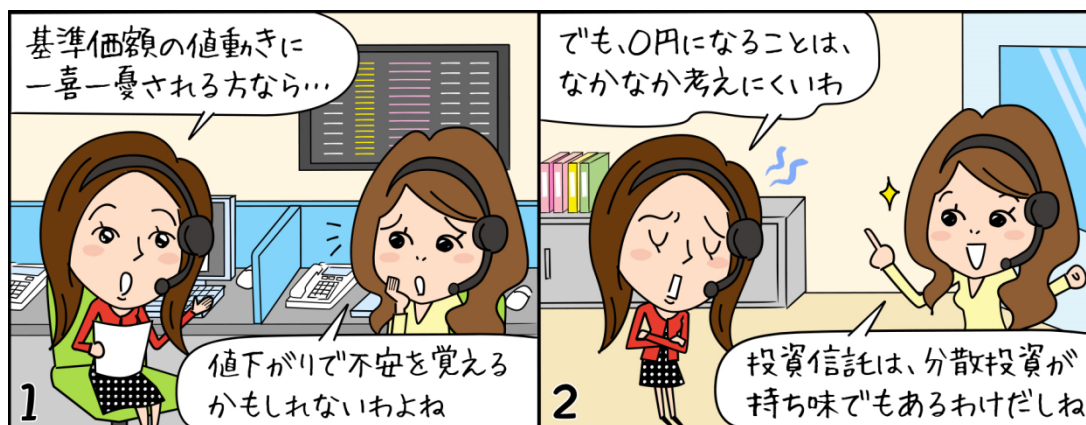
コールセンターからの小さなよみもの



Vol.83

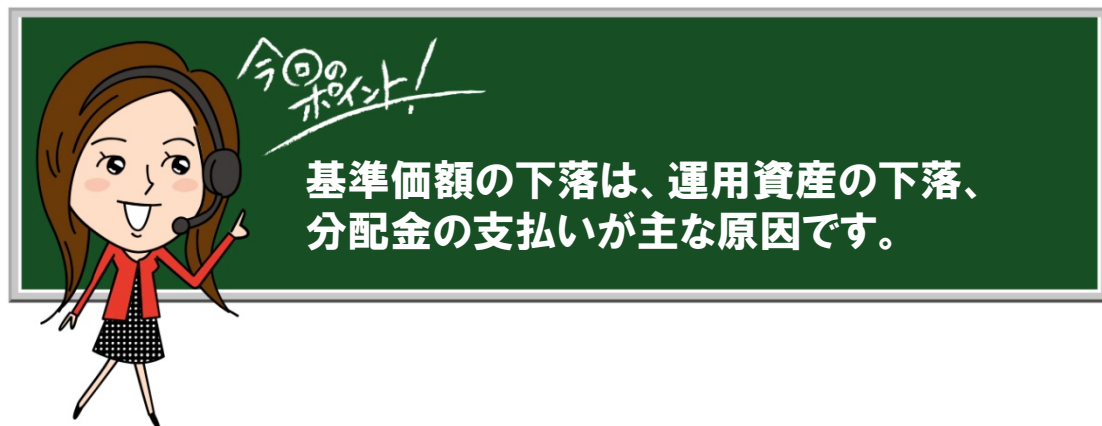
基準
価額

ファンドの基準価額が 0円になってしまうことはあるの？



基準価額の下落傾向が続くと、「このまま基準価額は0円になってしまうことはないの？」と心配の声が届きます。

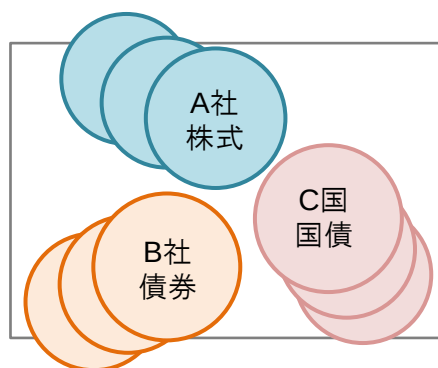
そこで今回は、基準価額が下落する原因をあらためて押さえていただきたいと思います。



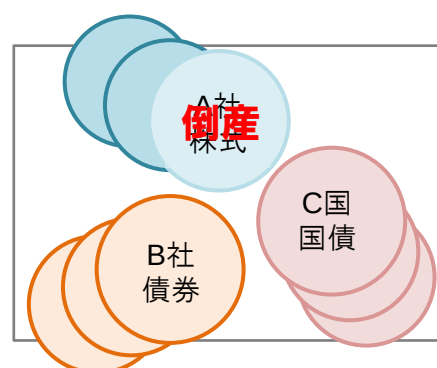


コールセンターからの小さなよみもの

ファンドの基準価額は、「純資産総額」を「受益権総口数」で割り、算出します。純資産総額は、ファンドが保有する株式や債券などの運用資産を時価評価（外貨資産は円換算）し、そこから信託報酬などの費用を差し引いて算出します。受益権総口数は、お客様（ファンドの受益者）が保有する口数の合計です。理論上、ファンドが保有しているすべての株式や債券などが倒産や債務不履行などで価格が0円になると純資産総額が0円になり、そうなった場合、基準価額も0円になります。しかし、ほとんどのファンドが通常複数の銘柄に分散投資をしているので、純資産総額が0円になる可能性は非常に低いと考えられます。



複数の銘柄に分散投資



A社が倒産し株価が0円になったとしても、他の銘柄の価値がすべて0円になる可能性は非常に低いと考えられる。

※イメージ図

また、基準価額は、分配金の支払いでも下落します。たとえば、ファンドの基準価額が3,000円で毎月50円の分配を行なった場合、基準価額は毎月50円分ずつ下がります。仮にこれが1年間続くと分配金は合計600円となり、保有資産の価値に変化がなければ、基準価額は2,400円に下がるという計算になります。ファンドが分配金として払い出せる範囲は決まっているため、際限なく分配金を出し続けられるわけではありませんが、このまま50円の分配を続けていくと、基準価額は60ヵ月（5年）で0円になってしまう計算になります。そのため、運用会社は基準価額の水準や投資環境に合わせて分配金額を変更します。

基準価額が下がると不安になりますが、今回押さえていただいた基準価額下落の原因や市場の動き、経済情勢などに目を配りながら、適切な投資判断に努めることが重要です。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00



2011年6月30日

コールセンターからの小さなよみもの



Vol.30

分配金

毎月分配型ファンド、買うなら 決算の前？ それとも後？



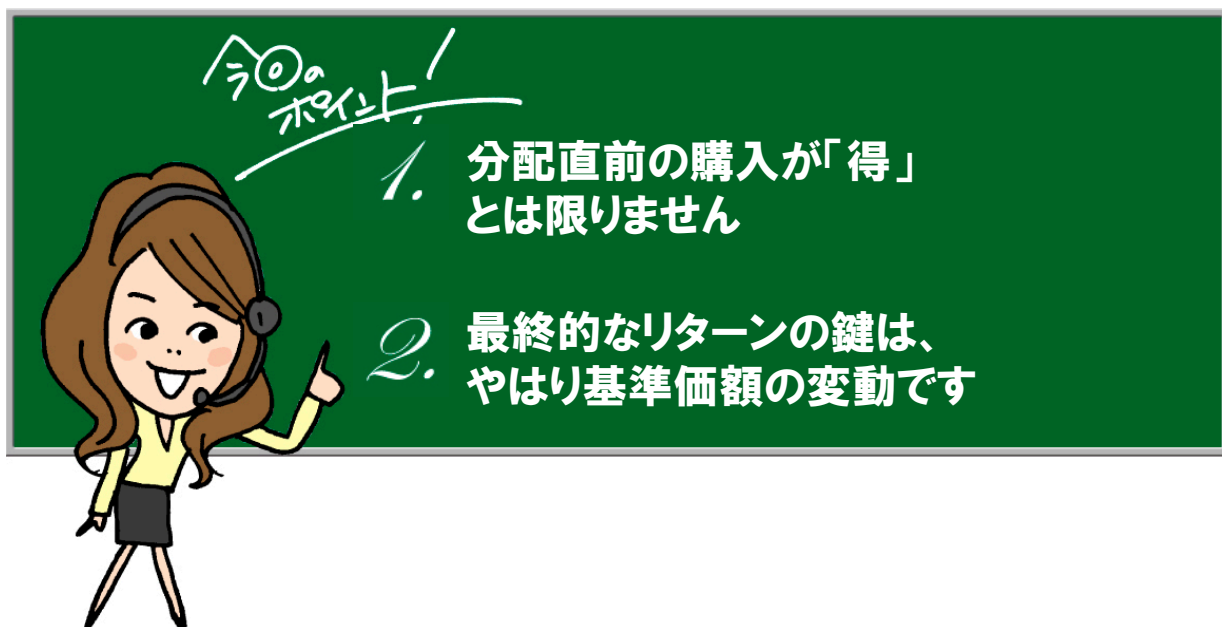
依然として根強い人気の毎月分配型ファンドですが、それを購入するタイミングについて、「分配金の受け取りに間に合うように・・・」と考える方がとても多いように感じます。分配金に対して大きな期待を持たれているからなのだと思いますが、その発想には少し誤解もあるような気がしてなりません。

そこで今回皆さまには、分配金と基準価額の関係について、次の2点を押さえていただきたいと思います。

1. 分配直前の購入が「得」になるとは限りません
2. 最終的なリターンの鍵は、やはり基準価額の変動です



コールセンターからの小さなよみもの



1. 分配直前の購入が「得」とは限りません

毎月分配型ファンドの分配金は、原則として、ファンドごとに決められた毎月の決算日に決定し、その時点でファンドを保有している方が受け取れます。その金額は、「1万口当たり〇〇円」と決定されるため、いつ買ったかには関係なく、受け取れる分配金の総額は、決算日におけるお客様ごとの保有口数に応じて計算されます。そのため、決算日の直前にファンドを買ったと、分配金をすぐに受け取れて“得”だと錯覚してしまいがちですが、実はそれは誤解なのです。

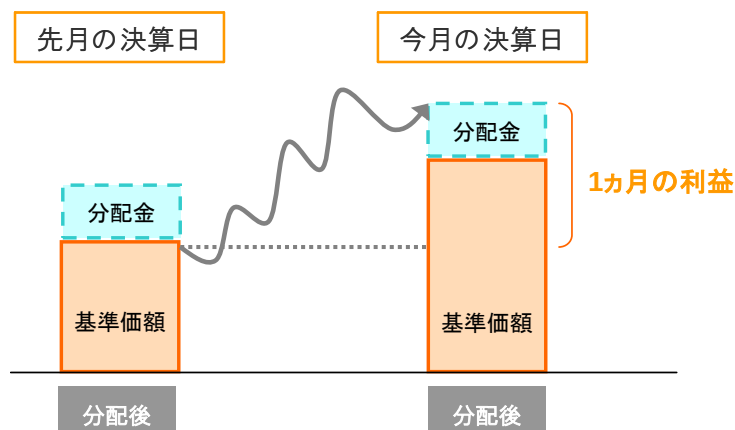
なぜなら、自分の購入資金の一部を、購入した直後に分配金として受け取っているような状態に過ぎないかもしれないからです。

基準価額は、ファンドが保有する資産(株式や債券)の値動き、配当金や利息の受け取り、また、信託報酬などの費用の支払いを受けて、日々変動します。そして決算日の基準価額は、そのような変動要因に加えて、さらに支払った分配金が差し引かれたものとなります。



コールセンターからの小さなよみもの

つまり、分配金は、決算時点のファンドの資産から支払われているものであり、その外で保管されている別の資産から支払われているわけではありません。ですから、ファンドが決算を迎え、分配金を支払うと、その分は必ず基準価額を下げることになるのです。



仮に、決算直前のファンドを基準価額10,000円で購入し、すぐに分配金50円(1万口当たり)を受け取ったとしましょう。もし、購入日から決算日までマーケットの動きが一切なければ、分配後の基準価額は9,950円となります(※)。このような場合は、自分の購入資金の一部を、分配金として受け取ったに過ぎなくなってしまいます。

※同期間のコストは考慮していません。

2. 最終的なリターンの鍵は、やはり基準価額の変動です

ところが実際は、常にマーケットは動いているため、必ずしも上の例のように、分配後の基準価額が9,950円になるとは限りません。もし、その1日で保有資産の値上がり分が100円あったとしましょう。分配後の基準価額は、 $(10,000円 + 100円 - 50円) = 10,050円$ になり、分配金を支払ったにもかかわらず、分配金を支払う前よりも基準価額が上がることになります。しかし、もしも分配がなければ、基準価額は、 $(10,000円 + 100円) = 10,100円$ となっているはずなので、やはり分配金の支払いによって基準価額が下がっていることには変わりありませんね。



コールセンターからの小さなよみもの

ファンドを購入したお客様のリターンは、保有期間中に受け取った「分配金」に、「基準価額の値上がり・値下がり」を加味して計算されます。決算直前にファンドを購入することは、分配金を1回分多く受け取れる代わりに、その分配金の分だけ高い基準価額からスタートすることになります。反対に、決算直後にファンドを購入することは、分配金の受け取りが1回分少なくなる代わりに、その分配金の分だけ低い基準価額でスタートすることができます。

つまり、お客様のリターンは、あらかじめ計算できない決算前後の市場の変動を除いて考えれば、ファンドを購入するタイミングが決算の直前でも直後でも、変わらないはずなのです。

ファンド購入のタイミングを考えると、決算の直前に購入して「1回でも多く分配金を受け取る」ことを優先するのではなく、基準価額の動きにきちんと注意を払う方が、理に適っているというわけですね。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00





2016年1月29日

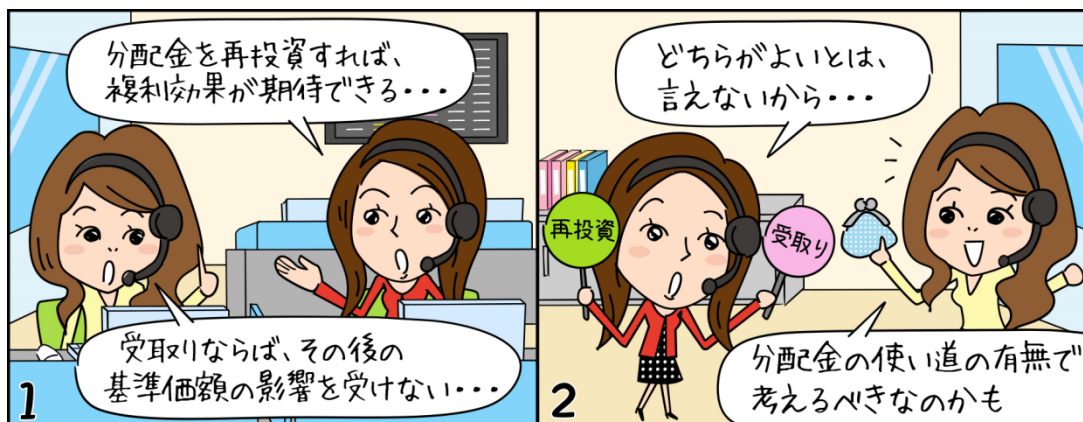
コールセンターからの小さなよみもの



Vol.84

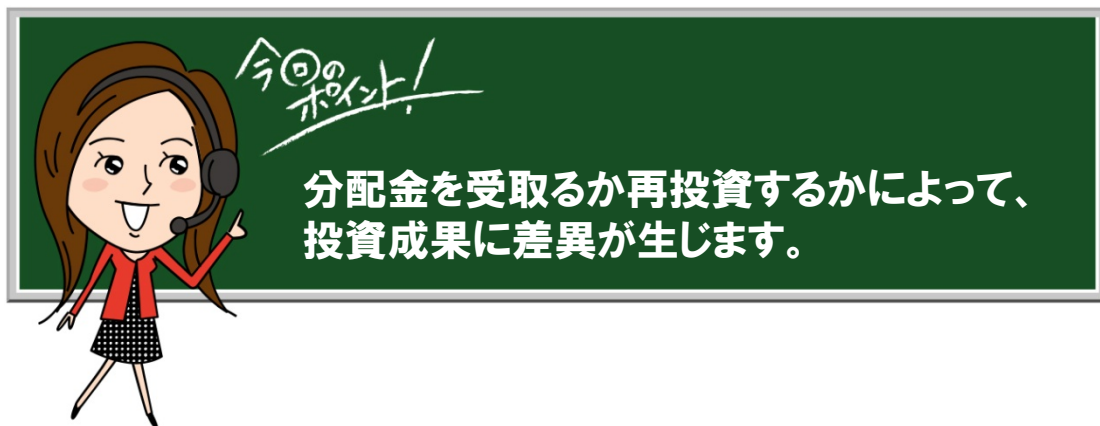
分配金

「分配金受取りコース」と「分配金再投資コース」 どっちがいいの？



毎月分配型ファンドでは、「分配金受取りコース」を選択されるお客様が多かったようですが、最近はNISAの普及とともに、長期的な資産運用を考え、分配頻度の低いファンドを選好する方が増えているようです。また、毎月分配型ファンドを購入された場合であっても、「分配金再投資コース」への関心が高まっているようです。

そこで今回は、「分配金受取りコース」と「分配金再投資コース」の違いを押さえていただきたいと思います。





コールセンターからの小さなよみもの

ファンドの分配金は、「分配金受取りコース」か「分配金再投資コース」を選択できます。*

* ファンドのお取扱い金融機関により、取扱いコースは異なります。

「分配金受取りコース」

課税後の分配金を、お客様が指定する金融機関の口座などで受取るコースです。ファンドの投資成果は、投資元本の時価評価に受取った分配金の合計額を加えた額で判断します。受取った分配金は、それぞれの決算日以降の基準価額の影響を受けません。

「分配金再投資コース」

課税後の分配金を、ファンドに再投資するコースです。お客様は分配金を受取らずにファンドを購入するので、保有口数が増加します。ファンドの投資成果は、追加購入後の投資元本の時価評価で判断します。分配金は受取らずファンドに再投資するため、それぞれの決算日以降の基準価額の影響を受けます。分配金を再投資すると、いわゆる複利効果が狙えることになります。

このように2つのコースには、決算日以降の基準価額の影響を“受ける”“受けない”の違いがあり、投資成果に差異が生じます。たとえば、基準価額が上昇傾向ならば、複利効果が得られる「分配金再投資コース」の方が有利に働きます。反対に、下落傾向ならば、分配以降の基準価額に影響を受けない「分配金受取りコース」の方が有利に働きます。しかし、この特徴をもって2つのコースを投資環境に合わせて使い分けることを推奨する訳ではありません。なぜなら、基準価額の上昇・下落の変化の局面で上記の事象は起こりえますが、それはあくまで途中経過でしかないからです。つまり、「分配金受取りコース」と「分配金再投資コース」どちらがよいというのはありません。たとえば、分配金の使い道が決まっている方は「分配金受取りコース」を、当面の使い道が決まっていない方は「分配金再投資コース」などといったお客様のニーズに合わせて選択されてはいかがでしょうか。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

□当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託の仕組みについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。□投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



2016年2月29日

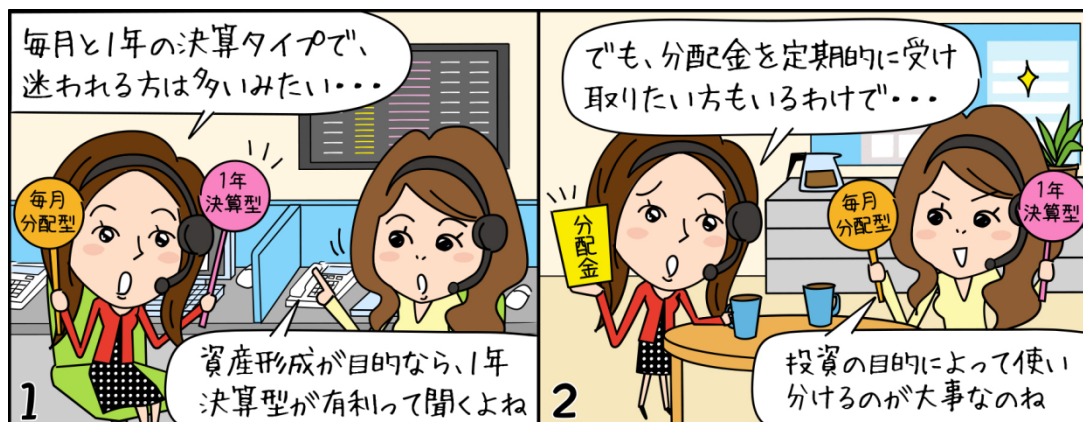
コールセンターからの小さなよみもの



Vol.85

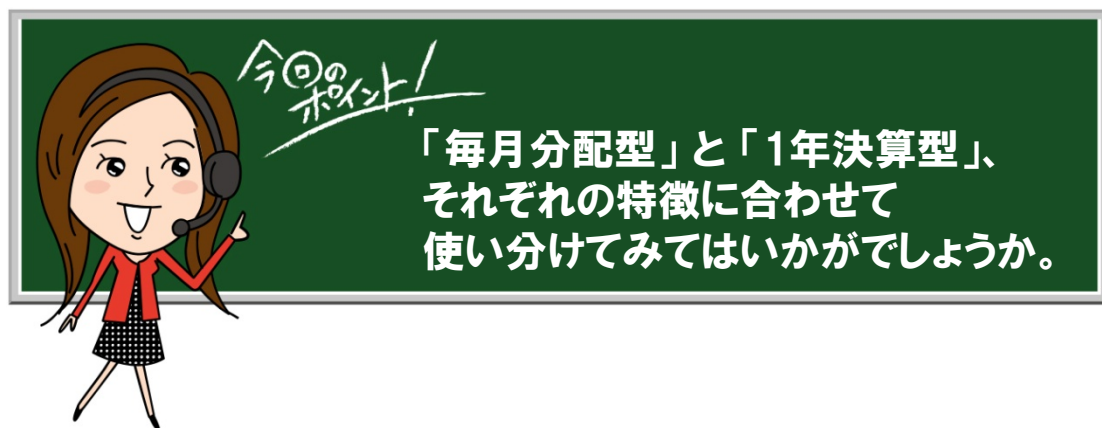
分配金

「毎月分配型」と「1年決算型」 どっちがいいの？



前回、「分配金受取りコース」と「分配金再投資コース」の違いについてお伝えしましたが、コールセンターには「毎月分配型」と「1年決算型」の違いについてもお問い合わせがあります。特に、「1年決算型」は「分配金再投資コース」と狙う効果が似ていることから、混乱してしまうようです。

そこで今回は、「毎月分配型」と「1年決算型」について押さえていただきたいと思います。





コールセンターからの小さなよみもの

「毎月分配型」

原則として、毎月収益分配を行なうことをめざします。また、多くのファンドが分配金を一定の水準に維持することをめざしています。従って、ほとんどの場合、1か月の運用期間中に得られた収益と分配金額はイコールにはなりません。例えば、毎月50円の分配をめざすファンドがあったとします。基準価額が1万円で、運用期間中の収益が100円だったとすると、分配金として50円支払うので、決算日の基準価額は10,050円となります。一方、同期間に100円の損失が出た場合でも分配金を50円支払うので、基準価額は9,850円となります。

「1年決算型」

年1回決算を行ない、運用成果に応じて分配を行ないます。

「毎月分配型」と「1年決算型」どちらかを選択できるファンドの場合、一般的に「毎月分配型」と比べ「1年決算型」の方が分配金の合計額を少額に抑えています。なぜなら、長期的な運用による資産形成をよりめざしているからです。

基準価額が上昇傾向にある場合、1年間分配金を受取らずに運用を続ける方が資産を増やす効果が高まります。これは、「1年決算型」のみならず、「毎月分配型」で「再投資コース」を選択した場合でも同様の効果が期待されます。ただし、税金には注意が必要です。分配金は課税の対象（ただし、元本払戻金は非課税）となり、決算回数が多いと、その分課税される金額も増えます。そのため、決算回数が1回の「1年決算型」の方が、相対的に資産を増やす効果が高くなると言えます。

また、NISA（少額投資非課税制度）を利用する場合は、毎年120万円まで非課税*で投資できますが、分配金の再投資分も非課税枠の利用となり、再投資をするたびに非課税枠を消化することになるので、再投資時に非課税枠が残っていなければ、分配金は課税口座である一般口座・特定口座で再投資されることになります。非課税枠を効率よく利用するためには、分配頻度が低く、分配金の合計額が少ない「1年決算型」の方が利用しやすいと言えます。

*5年間、投資信託等への投資で得た収益が非課税になります。

定期的に分配金を受取りたい場合は「毎月分配型」を、長期的な運用による資産形成をめざすのであれば「1年決算型」を、といったお客様のニーズに合わせて使い分けてみてはいかがでしょうか。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

□当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託の仕組みについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。□投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



2012年10月31日

コールセンターからの小さなよみもの



Vol.46

分配金

「分配金」と「基準価額」の バランスって？



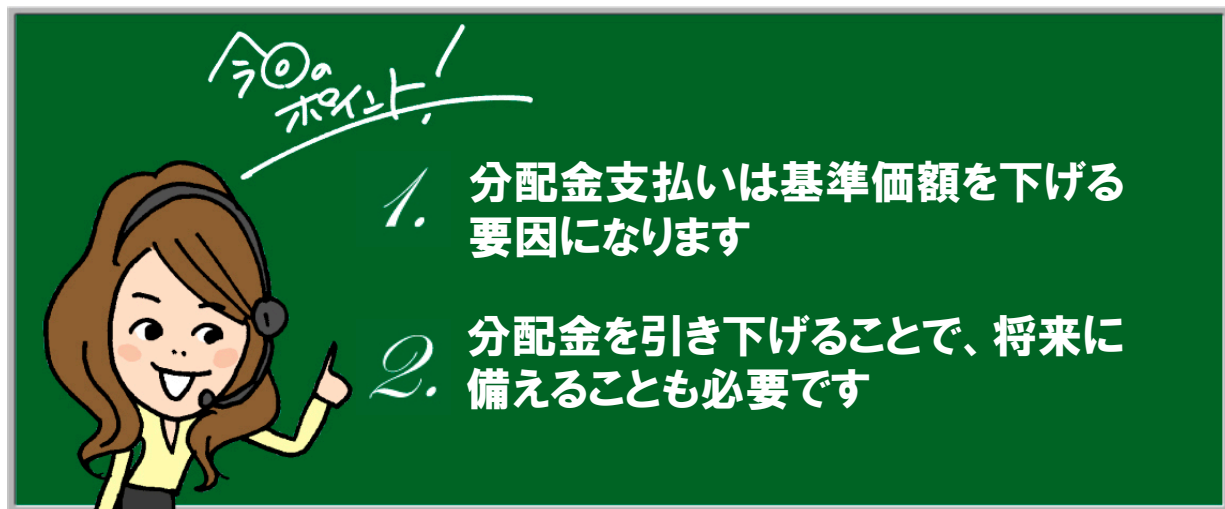
毎月分配型ファンドは人気のあるファンドです。毎月分配金を受け取ることに魅力を感じている方が多いためかと思います。そのため、分配金引き下げられるとファンドの魅力もなくなってしまうと思っている方もいるようです。

そこで今回は「分配金の引き下げ」を考えるうえで、次の2点を押さえていただきたいと思います。

1. 分配金支払いは基準価額を下げる要因になります
2. 分配金を引き下げることで、将来に備えることも必要です



コールセンターからの小さなよみもの



1. 分配金支払いは基準価額を下げる要因になります

分配金はファンドの運用資産から支払われるので、ファンドが支払った分配金だけ、基準価額が下落することになります。ファンドが分配金を支払いながら基準価額の水準を下げないようにするためには、支払う分配金以上の収益を上げる必要があります。

毎月「100円」の分配金を支払っているファンドがあったとします。「100円」の分配金は、そのファンドの基準価額が10,000円ときには基準価額の1%分ですが、基準価額が5,000円ときにはその2%分となります。基準価額の水準によって、支払う分配金の基準価額に対する比率が異なります。これが1年間分ともなると、それぞれ12%と24%とその差はより一層大きなものになります。

つまり、基準価額が低下すると、支払う分配金の基準価額に対する比率が高まります。基準価額の水準を維持するためには、今まで以上に高い収益を上げる必要があり、ファンドにとって負担が大きくなるのです。

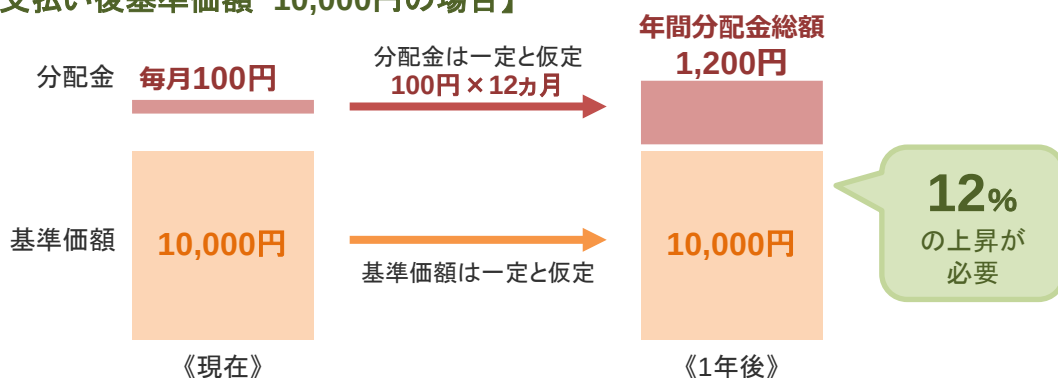


コールセンターからの小さなよみもの

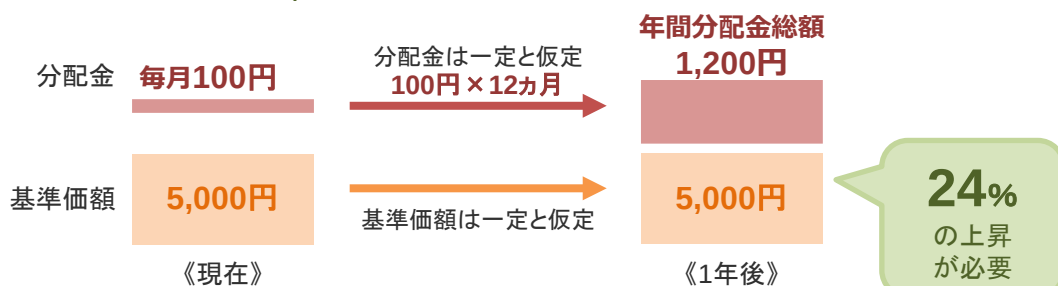
さらに、マーケットの状況などが悪く収益を上げることができていないのに、今までと同額の分配金を支払い続けていると、マーケット要因で基準価額が下がっているのに加えて、分配金を支払うことでさらに基準価額が低下することになってしまいます。そのため、基準価額が下落した後も、以前と変わらずに同額の分配金を支払い続けた結果、基準価額がさらに低下してしまっているファンドもあるようです。

<1年後に同水準の基準価額を保つために必要となる収益は？>

【分配金支払い後基準価額 10,000円の場合】



【分配金支払い後基準価額 5,000円の場合】



※ファンドは毎月分配型。
 ※手数料・税金は考慮していません。
 ※1年後の基準価額は変わらないと仮定しています。
 ※上記はイメージ図です。

□当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託の仕組みについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。□投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



コールセンターからの小さなよみもの

2. 分配金を引き下げることで、将来に備えることも必要です。

本来、投資は中長期のリターンを期待するものです。その過程において、一部を取り崩す“機能”が分配金といえます。その分配金を払い出すことが、ファンドにとって負担が大きいと判断された場合は、分配金が引き下げられることがあるのです。

分配金はファンドの運用資産を取り崩して支払われるため、分配金を引き下げれば、その分基準価額は下がらずに運用資産として残ります。たとえば、「100円」の分配金を1年間支払えば1,200円ですが、分配金を引き下げ「80円」とすれば1年間で960円となります。つまり、分配金を20円下げることによって1年間で240円分が運用資産に留まることになるのです。

ファンドが運用を続けていくためには、分配金を支払い続けることで運用資産が減少しないように、支払う分配金と基準価額のバランスを取ることも必要なことです。

運用資産が減少してしまうと、市場が上昇局面を迎えたときに得ることができるリターンが減少することになってしまいます。そのため、分配金としてファンドの運用資産から払い出す額を減らして、ファンド内に留めておくことも必要なことなのです。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00



 で、経済、投資の最新情報をお届けしています。



2010年11月30日

コールセンターからの小さなよみもの



Vol.23

ファンド
の損益

分配金だけを見て、 ファンドを判断していませんか!?



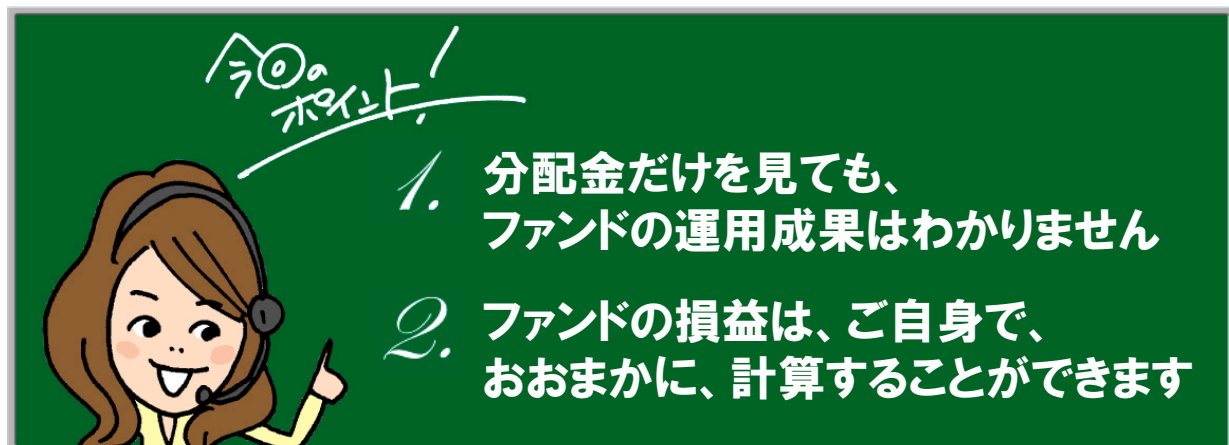
「毎月分配型ファンド」は、毎月分配金が受け取れるという点が皆さまから好まれ、ここ数年にわたり、大変人気の高いファンドです。しかし、コールセンターへの問い合わせの中には、分配金を意識しすぎるために、ファンド本来の姿を見落としがちになっている方が増えているように思います。

そこで今回皆さまには、分配金と上手に付き合っていただくために、次の2点を押さえていただきたいと思います。

1. 分配金だけを見ても、
ファンドの運用成果は
わかりません
2. ファンドの損益は、
ご自身で、おおまかに、
計算することができます



コールセンターからの小さなよみもの



1. 分配金だけを見ても、 ファンドの運用成果はわかりません

毎月分配型ファンドなど、分配金が定期的に支払われるファンドは、多くの皆さまからの注目を集めています。

基本的に、毎月分配型ファンドなどの分配金は、ファンドが得た株式の配当金や債券の利息などの「インカム収益」と、ファンドの保有資産の値上がりによる「キャピタル収益」をもとに決められています。インカム収益とキャピタル収益の合計は毎月異なりますが、皆さまが目にする毎月分配型ファンドの分配金の多くは、月によって20円だったり100円だったり、金額が大きく変動はしていないのではないのでしょうか。なぜならそのファンドは、得られた収益をそのまま分配金としてお支払いするのではなく、同じ分配金をできる限り継続させようとする「安定分配をめざすファンド」だからです。

例えば、基準価額が値上がりしている場合、インカム収益とキャピタル収益の合計が増えているということですが、「安定分配をめざすファンド」では必ずしも分配金を上げません。逆に基準価額が値下がりしている場合は、インカム収益とキャピタル収益を合計しても収益が得られなかった、つまりは損失となった決算期だということですが、それでも「安定分配をめざすファンド」の場合は、その期にも分配金を下げないことがあります。



コールセンターからの小さなよみもの

つまり、分配金だけを見ても、そのファンドの運用成果はわからないのです。したがって、「安定分配をめざすファンド」の運用成果を見るときは、分配金だけではなく、基準価額の動きを足し合わせて見なければなりません。

たとえば、基準価額10,000円のAファンドとBファンドの今月の分配金が、Aファンドは100円、Bファンドは50円だったとします。1ヵ月後、基準価額がAファンドは10,200円に、Bファンドは10,300円になったとします。Aファンドは分配金100円と値上がり益200円の合計300円が利益となり、Bファンドは分配金50円と値上がり益300円の合計350円が利益となります。つまり、Aファンドの方が分配金は多いけれど、Bファンドの方がトータルの利益は多かったということです。

2. ファンドの損益は、ご自身で、 おおまかに、計算することができます

お持ちのファンドが購入時からどのくらい利益や損失がでているのか、おおまかに把握する方法があります。おおまかに把握するためには、次の3つの数字が必要です。

1つめの数字は「**現在の基準価額**」(次ページの図①)です。これは日経新聞の「オープン基準価格覧」や弊社ホームページで最新のものが確認できます。購入された金融機関へ問い合わせても教えてもらえますし、もちろん私たちコールセンターにもお気軽にお問い合わせいただければと思います。

2つめは、お客さまの「**購入時の基準価額**」(同②)です。これは私たち運用会社ではわからないことで、購入された金融機関が管理している情報です。購入したときの明細書のようなものには必ず書いてあるはずですが、もしわからない場合は、ファンドを購入された金融機関に確認してみてください。

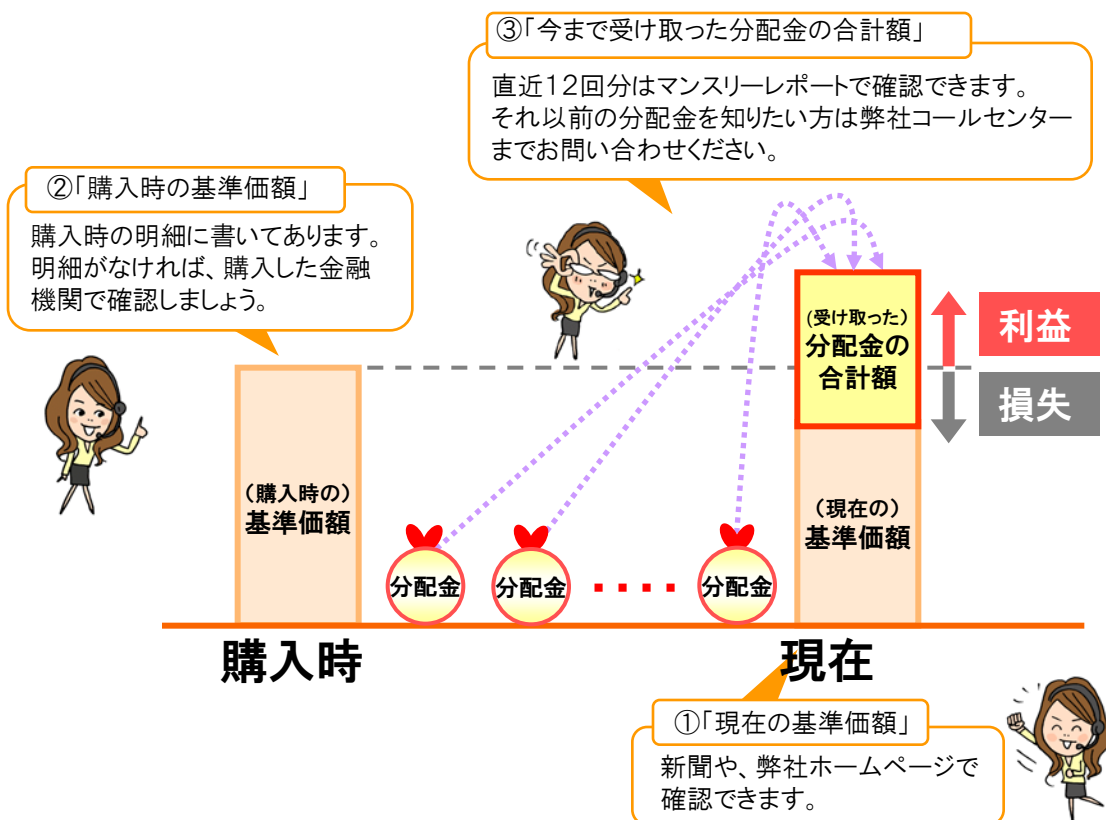
3つめは「**今までに受け取った分配金の合計額**」(同③)です。これを知る簡単な方法は、運用会社が毎月作成しているマンスリーレポートの分配金の履歴を見ることです。一般にマンスリーレポートには直近12回分の分配金がついていますが、1年以上保有されている場合には、私たちコールセンターまでお尋ねください。



コールセンターからの小さなよみもの



さて3つの数字が確認できたら、①と③の合計、つまり「現在の基準価額＋今まで受け取った分配金の合計額」と②の「購入時の基準価額」を比較します。



もうおわかりのとおり、「現在の基準価額＋今まで受け取った分配金の合計額」が「購入時の基準価額」を上回っていたら、今現在利益がでていることになりますし、逆に下回っていたら損失がでているということになります。

この計算には、購入時の手数料や分配時・換金時などの税金が含まれていません。また、分配金を再投資する分配金再投資コースの場合には、再投資した分配金による投資分も、基準価額の動きに左右されることになるので、実際の損益とは多少ズレがあります。

しかし、目の前の分配金に惑わされることなく、ファンド全体としての運用が上手くいっているのかどうかを把握するためのひとつの目安にはなるのではないのでしょうか。

ぜひ一度試してみたいと思います。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00～17:00



2012年2月29日

コールセンターからの小さなよみもの



Vol.38

個別元本

元本払戻金(特別分配金)を受け取ったら、個別元本が低下。これは“損”なこと!?



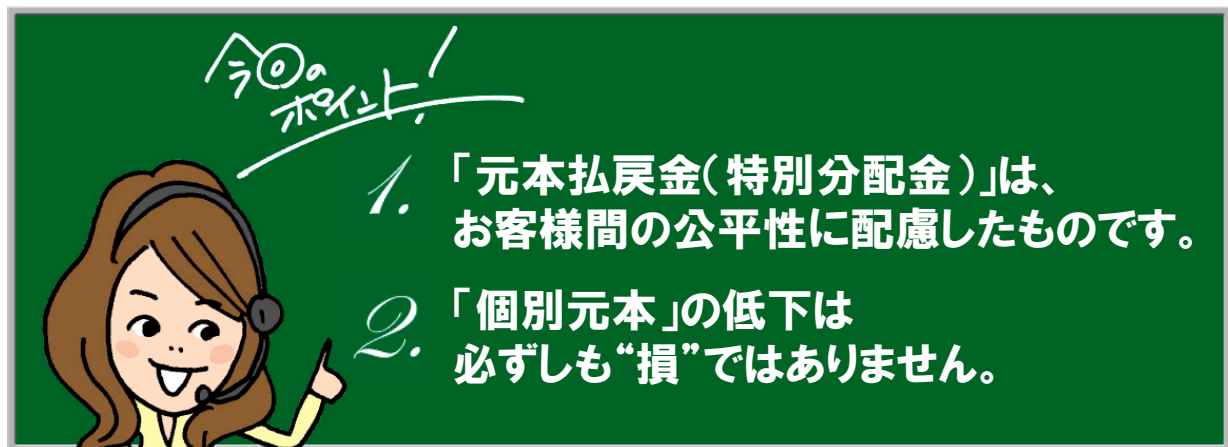
お客様がファンドから分配金を受け取られたことをお知らせする通知。そこに書かれている「元本払戻金(特別分配金)」や「個別元本」という言葉について、コールセンターには多くのお問い合わせをいただきます。中には、「個別元本」の金額が低下していくことに不安を感じる方もいらっしゃるようです。

そこで今回皆さまには、「個別元本の仕組み」について、次の2点を押さえていただきたいと思います。

1. 「元本払戻金(特別分配金)」は、お客様間の公平性に配慮したものです。
2. 「個別元本」の低下は必ずしも“損”ではありません。



コールセンターからの小さなよみもの



1. 「元本払戻金(特別分配金)」は、お客様間の公平性に配慮したものです。

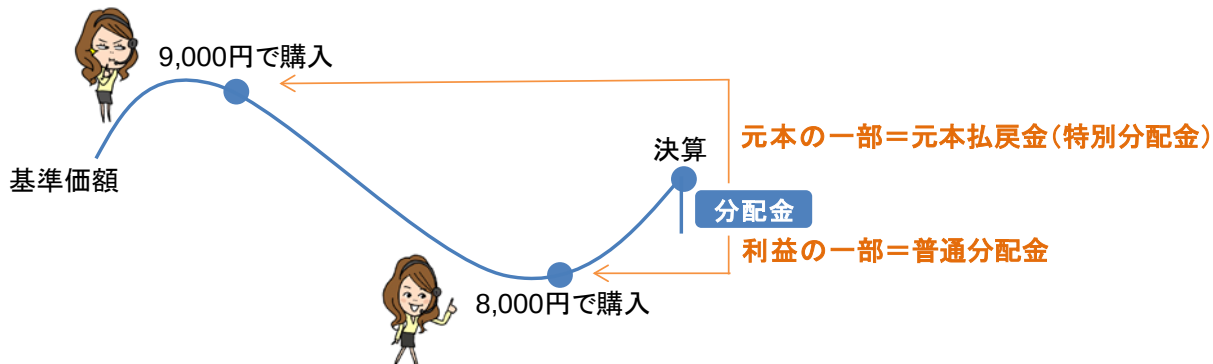
ファンドが支払う分配金は、「1万口当たり〇円」と一律で決められますが、その「中身」はお客様によって異なります。多くのファンドはいつでも購入することができるため、あるファンドを基準価額8,000円で購入したお客様もいれば、9,000円で購入したお客様もいることになります。たとえば、そのファンドが基準価額8,500円のときに分配金を支払ったとすると、前者のお客様にとっては利益の一部を受け取ったことになりますが、後者のお客様にとっては投資元本の一部を受け取ったことになるのです。お客様ごとにファンドの購入時の基準価額の水準が異なるため、どうしても、このような状況が起きてしまいます。

分配金にかかる税金には、こうしたお客様ごとに異なる分配金の「中身」が考慮されています。お客様の購入時の基準価額を上回っている部分、いわば利益から支払われた分配金は「普通分配金」と呼び課税される一方、下回っている部分、いわば投資元本から支払われた分配金は「元本払戻金(特別分配金)」と呼び非課税となります。そして「個別元本」とは、お客様ごとに異なる税制上のボーダーライン、つまり、どこから上が利益で、どこから下が投資元本とみなされるかを区別するためのものです。



コールセンターからの小さなよみもの

個別元本は、「お客様の資産が現在いくらになっているか？」ではなく、「税制上、お客様はいくらで買ったとみなされるか？」を表すものであり、あくまでも分配金を受け取ったときに、課税すべき利益かそうでないかを線引きするためのものにすぎません。お客様の資産が現在いくらになっているか？は、いつでも「保有口数×現在の基準価額」で計算される金額です。



2. 「個別元本」の低下は必ずしも“損”ではありません。

お客様の「個別元本」は、当初は購入時の基準価額ですが、その後、追加購入した時や元本払戻金(特別分配金)を受け取った時に修正され、変化していきます。

まずは追加購入した場合。たとえば当初、あるファンドを基準価額10,000円で100万口購入したとします(購入金額100万円※)。その時点の個別元本は10,000円ですが、その後、基準価額が7,000円になったところで50万口追加で購入したとします(購入金額35万円※)。すると、個別元本は $(135万円 \div 150万口) = 9,000円$ に修正されます。なお、分配金を再投資した場合も、「追加購入」したことになる、同じように個別元本は修正されます。

次に、元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合です。元本払戻金(特別分配金)は、課税の対象とならない個別元本の一部を払い戻したものとみなされるため、受け取ると、その分だけ個別元本が引き下げられます。そのため、元本払戻金(特別分配金)の受け取りが続くと、そのたびに個別元本は下がります。それは、お客様がファンドの運用によって利益を得る前に、「分配金」として投資元本を少しずつ手にしてしまっている状態であり、それ自体は損でも得でもありません。

※お申込手数料、税金は考慮していません。



コールセンターからの小さなよみもの

個別元本が下がると、「実際よりも低い基準価額で購入したとみなされ、余計に税金がかかってしまう」と感じられる方がいるかもしれません。しかし、それまでに受け取られた元本払戻金(特別分配金)を個別元本に足せば、実際の購入時の基準価額(当初の個別元本)になるはずです。課税されるのは、ファンドの基準価額がその購入時の基準価額(当初の個別元本)を上回ったとき、つまり、あくまでもお客様にとって利益が出たときです。それは、特別分配金を受け取ったお客様でも、そうでないお客様でも変わりません。

少し分かりにくい「元本払戻金(特別分配金)」や「個別元本」という言葉。しかし、これは、いつでも購入できるという便利さゆえに、お客様ごとに購入時の基準価額が異なってしまうファンドに、課税上の不平等がおきないようにと考えられた制度なんですね。

ご不明な点、気になる点などがありましたら、
ぜひ日興AMコールセンターまでお問合せください。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00



 で、経済、投資の最新情報をお届けしています。

□当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託の仕組みについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。□投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



2016年9月30日

コールセンターからの小さなよみもの



Vol.92

資産
運用

投資のタイミングに迷ったら・・・



市場は常に上昇と下落を繰り返していますので、コールセンターには「投資のタイミングに迷ってしまう」というお客様からの声が寄せられます。

そこで今回は、投資のタイミングについて押さえていただきたいと思います。





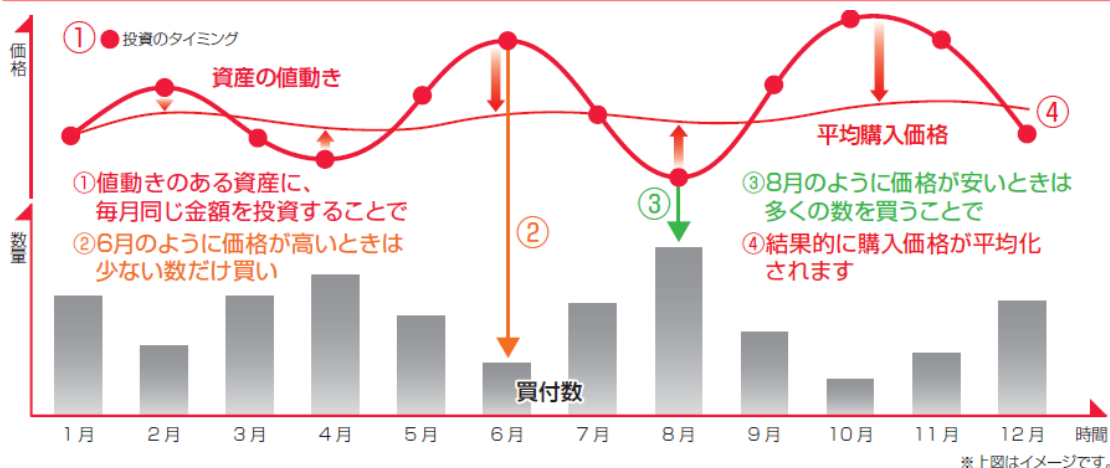
コールセンターからの小さなよみもの

ファンドは、基準価額が下落した時に購入し、上昇した時に売却するのが理想的ですが、その判断はなかなか難しいものです。そんな時には、タイミングを分けて投資する「時間分散」という方法があります。

仮に今、手元に100万円の投資資金があるとします。「今が購入タイミングかも！」と思う一方で、「まだこれから基準価額が下落するかもしれない…」という迷いがある場合、何回かに分けて投資してみてはいかがでしょうか。例えば、基準価額が1万円のファンドに一度に全額投資するのではなく、まずは50万円を投資し、仮に基準価額が9千円になった時に残りの50万円を投資することで、高値づかみの後悔を減らすことができます。また、より簡単に「時間分散」投資を行なう方法として、自動積立投資があります。自動積立投資は、毎月決まった日に同じ金額を自動的に投資することで基準価額が高い時に一度に購入してしまうというのを避けることができ、長期的に「時間分散」投資を行なうことで購入価格が平均化されます。

※ 金融機関によって自動積立投資サービスの取扱いは異なります。

自動積立投資の効果(イメージ)



そして、「時間分散」は、購入時だけでなく、売却時にも効果を発揮する場合があります。

投資のタイミングに迷った時には、「時間分散」をうまく活用して少しでも不安を解消してみませんか。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

こよみ



2009年11月30日

コールセンターからの小さなよみもの



Vol.11

通貨
選択型

為替ヘッジ!? 為替予約!? 為替ヘッジプレミアム!?!?



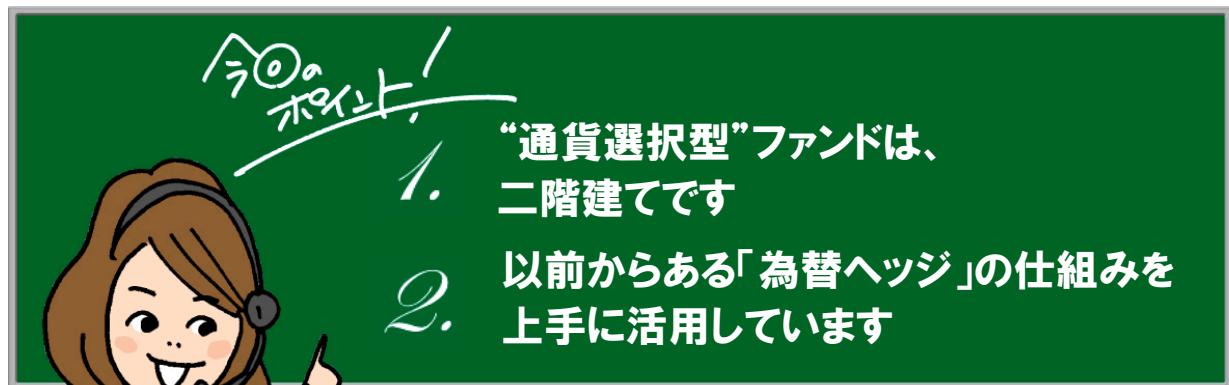
最近、“通貨選択型”という新しい仕組みのファンドが出てきました。弊社でもいわゆる「資源株」や「新興国債券」に投資するファンドにその仕組みが採用されています。これ までのファンドと通貨選択型のファンドとは、いったいどんな違いがあるのでしょうか。

そこで今回皆さまには、次の2点を押さえていただきたいと思います。

1. “通貨選択型”ファンドは、二階建てです
2. 以前からある「為替ヘッジ」の仕組みを上手に活用しています



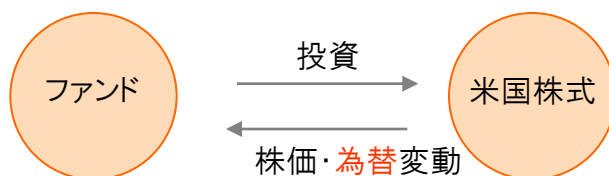
コールセンターからの小さなよみもの



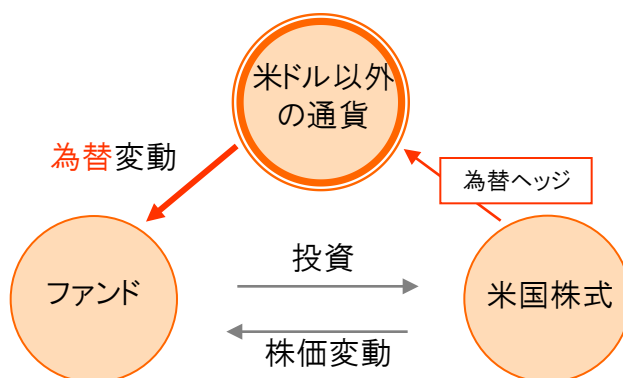
1. “通貨選択型”ファンドは、二階建てです

簡単にいえば、普通のファンドの運用成果の上に、為替取引による「プラスアルファ」を乗せたものが“通貨選択型”ファンドです。

例えば普通の米国株式ファンドであれば、下図のように株価変動と円/米ドルの為替変動を合わせたものが運用成果となります。円安/ドル高になったらプラスに、逆に円高/ドル安になればマイナスに働くのはご存知の通りです。



“通貨選択型”のファンドは、この関係を「ひとひねり」しています。





コールセンターからの小さなよみもの

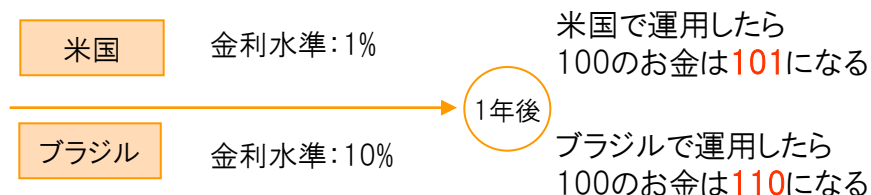


図のように米国株式に投資したファンドの場合、投資対象が米国株式でありながら、もはや円/米ドルの為替レートの変動は関係なくなります。なぜなら、「為替ヘッジ」を行なうことで、ファンド保有者から見れば「米国株式を米ドル以外の通貨で保有する」かたちになっているのです。

2. 以前からある「為替ヘッジ」の仕組みを上手に活用しています

為替ヘッジのためには、ファンドの中で「為替予約」という取引を行ないます。例えば米国株式を保有していてブラジルレアルに為替ヘッジするケースでは、「米ドルからレアルに交換し、将来、元に戻すことを現時点で予約する」取引です。これにより、実質的にレアル建てで米国株式を保有する状態になります。

このとき将来の交換の約束は、現時点の為替レートではできません。なぜなら二国間で金利水準が違うためです。例えば以下のような感じです。



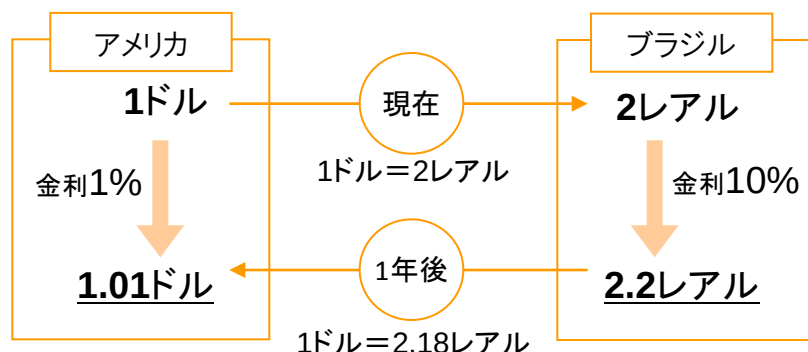
為替ヘッジとは、そもそも将来の為替レートを現時点の水準で固定するために行なう取引です。この取引を成立させるためには、ヘッジした先の国の通貨を持つことで「最低限得られるはず」の金利の確保が条件になります。

つまり金利の差からくる、明らかに不利な取引は成立しないのです。この、金利差による不公平が無くなるように調整された、将来交換するときの為替レートを「フォワードレート」と呼びます。

この話を、米ドルとブラジルレアルに当てはめて考えてみましょう。現在の為替レートが1ドル=2レアル、米国の金利が1%、ブラジルが10%と仮定すると、次のようにフォワードレートが計算できます。



コールセンターからの小さなよみもの



それぞれに1年間の金利を反映すると、1ドルは金利1%で1.01ドルに、2リアルは金利10%で2.2リアルになります。1年後の交換が成立するためには、この双方での運用が等価値になるように、つまり1.01ドルと2.2リアルが等価値になるように約束されるのです。

分かりにくいので1ドル当たり換算すると、1ドル=2.18リアル(2.2÷1.01)です。1ドルを2リアルと交換、ではなく、2.18リアルと交換する、これがフォワードレートによる交換、すなわち“為替ヘッジ”です。

これは、リアル建てで米国株を保有している立場からすれば、リアル安による為替“差益”を現時点で確定できることに他なりません(1ドル=2リアル→2.18リアル)。これをヘッジによる収益、「ヘッジプレミアム」と呼びます。

従来は、外貨建資産を円にヘッジするタイプのファンドが多く、金利の低い円にすることで、フォワードレートが現在よりも「円高/外貨安」になる、つまり収益がマイナスに働く「ヘッジコスト」が一般的でした。“通貨選択型”ファンドとは、金利の高い国の通貨へヘッジすることで、ヘッジプレミアムを追加収益として期待するファンドといえます。

ただし、日本円で評価するファンドを保有するお客さまから見れば、上記の例でいえばブラジルリアルへの為替ヘッジによって、円/リアルの変動の影響を受けるようになるわけです。投資対象資産の見通しに加え、ヘッジ先通貨の見通しも要チェックであることは、くれぐれも忘れないようにしましょう。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00





2012年7月31日

コールセンターからの小さなよみもの



Vol.43

運用の
仕組み

為替変動のリスクの低減をめざす ファンドの仕組みとは？



世界的に投資家のリスク回避姿勢が強まると、為替市場では円高が進む傾向が見られています。そのため、現在のような不安定な投資環境においては、依然として為替変動リスクに慎重にならざるを得ません。

そこで今回皆さまには、為替変動リスクの低減をめざす「円ヘッジ」という手法について、次の2点を押さえていただきたいと思います。

1. 「円ヘッジ」で為替変動リスクの回避をめざします
2. “金利差”分だけコストが発生します



コールセンターからの小さなよみもの



1. 「円ヘッジ」で為替変動リスクの回避をめざします

海外の株式や債券などに投資をしているファンドの基準価額は、株式や債券などの価格変動に加えて、為替変動の影響も受けます。そのため、株式や債券の価格が上昇しても、外貨の下落(円高)によって基準価額が下落してしまうことがあります。最近では、欧州債務問題や世界的な景気減速懸念などを背景として投資家がリスクに消極的になり、安全資産としての債券の価格は上昇する(利回りは低下する)一方で、外貨が下落する(円高になる)など、為替変動の影響に慎重にならざるを得ない局面が多く見受けられました。

こうした環境における選択肢として考えたいのは、為替変動リスクの低減をめざす「為替ヘッジ(円ヘッジ)」です。

例えば一般的なオーストラリア債券に投資をするファンドの場合、基準価額は、オーストラリア債券自体の価格変動だけでなく、通貨を日本円から豪ドルに交換するために、豪ドル(対円)の為替変動の影響も受けます。しかし「為替ヘッジ(円ヘッジ)」をするファンドは、オーストラリア債券に投資すると併せて、「将来、豪ドルから日本円に交換する」という反対の取引を行なうことで、為替変動の影響を抑えることをめざすのです。銀行などを相手として、こうした将来の為替の交換を約束する取引を「為替予約」といいます。



2. “金利差”分だけコストが発生します

では、「将来、豪ドルから日本円に交換する」という為替予約をするとき、その交換レートは、どのように決まるのでしょうか。

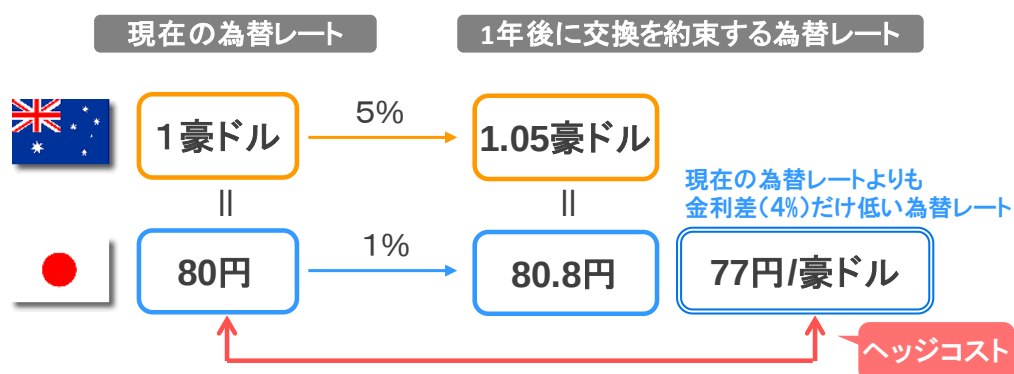
例えば、現在の為替レートが1豪ドル＝80円、日本の金利が1%、オーストラリアの金利が5%のとき、「1年後に1豪ドル＝80円で交換する」という約束ができれば、どうでしょうか。誰もが今、日本円を豪ドルに交換し、1年間で5%の金利を受け取り、1年後に再び円に戻すことで確実に利益を得られます。しかし残念ながら、そのような“片方だけが有利になる約束”は成立しません。

今から1年後の交換レートは、交換する双方が納得して取引できるレート、すなわち、1年後の日本円(80円+金利1%=80.8円)と、1年後の豪ドル(1豪ドル+金利5%=1.05豪ドル)が等しくなる為替レートとなります。つまり、1豪ドル＝76.95円が現在約束できる1年後の交換レートであり、これは現在のレートよりも金利差分(5%－1%＝4%)だけ円高のレートでもあります。

1年後の実際の為替レートは、もちろん円安になることも円高になることもあります。しかし、あらかじめ約束する場合には、実際の為替レートがどのようになっても、金利差分だけ円高のレートで固定されることになるため、“為替差損”が発生することになります。それが「ヘッジコスト」と呼ばれるものです。

1年後の予約レートは？

豪ドルを円にヘッジする場合(豪ドル短期金利：年5%、円短期金利：年1%と仮定)





コールセンターからの小さなよみもの

この「ヘッジコスト」はヘッジ対象国の金利によって異なりますが、現在は先進国を中心に金利低下が進んでいることにより、ヘッジコストが非常に小さい通貨が増えていることも、円ヘッジが注目される理由になっています。

円ヘッジをするファンドの中には、常に資産の100%に対して為替変動リスクの回避をめざすファンドもあれば、部分的に円ヘッジをし、為替変動リスクの緩和を狙うファンドもあります。また、運用会社の判断で、円ヘッジする割合を調整しながら運用するものや、円ヘッジをする局面としない局面を切り替えながら運用するものもあります。

時に大きな基準価額の変動要因となり、資産運用において無視できない為替変動リスク。「円ヘッジ」の効果的な活用をご検討してみてもはいかがでしょうか。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00



 で、経済、投資の最新情報をお届けしています。



2016年6月30日

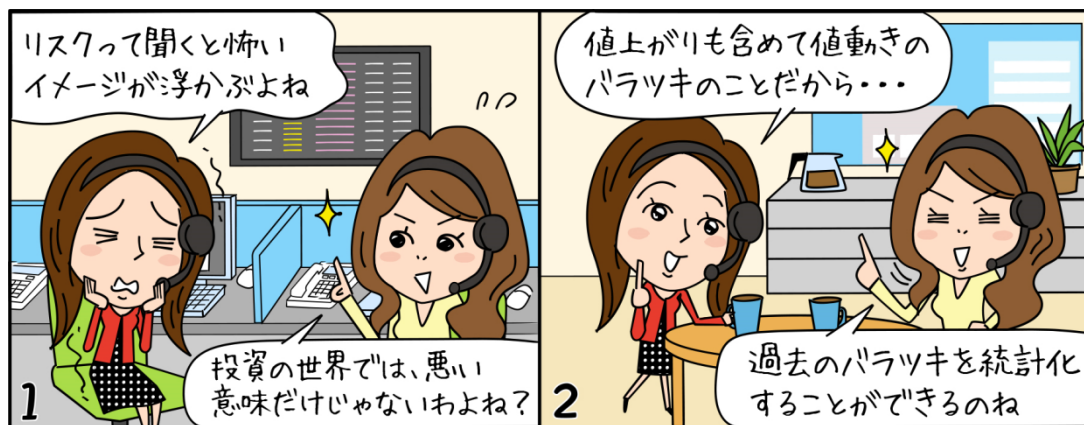
コールセンターからの小さなよみもの



Vol.89

標準
偏差

リスクは怖いもの？



みなさんは、「ハイリスク・ハイリターン」、「ローリスク・ローリターン」という言葉を聞いたことがあると思います。資産運用の世界では、リスクとリターンは切り離せない関係にあります。ハイリスク・ハイリターンとは、高いリターンを追求するには、相応の高いリスクが伴うことを示しています。では、そのリスクとは何を指しているのでしょうか。

そこで今回は、資産運用におけるリスクについて押さえていただきたいと思います。





コールセンターからの小さなよみもの

一般にリスクと聞いて思い浮かべるのは、“危険”や“損失”ではないでしょうか。しかし、資産運用においては、リターンの変動のことをリスクという場合があります。ファンドは値動きのある資産に投資するため、基準価額が変動します。リスクとは、この基準価額の値動きのバラツキを指し、このバラツキは標準偏差で表すことができます。よって、ファンドの運用成績の説明の中で、「リターン〇%、リスク□%」とあれば、リスクの部分は年率の標準偏差を意味しています。

標準偏差とは、統計学の用語で、平均値からのバラツキを見るための尺度として使われ、身近なものではテストの成績を測る“偏差値”をイメージしていただくとわかりやすいと思います。

ファンドの場合、平均リターン5%でリスクが10%であれば、1年後の基準価額が平均リターン±10%の幅、つまりマイナス5%からプラス15%の範囲におおよそ68%*の確率で収まるという意味です。このように、ファンドを購入する際は標準偏差を確認することで、ある程度は値動きがイメージできます。

ファンドは、投資対象によって値動き(リスク)の大きさが異なります。ある程度の値動きがないと値上がりは追求できませんが、標準偏差はマイナス側にも振れますので、値動きが大きなファンドに集中しすぎると思わぬ損失を被る可能性があります。それを回避する方法として、バランス型ファンドに投資をしたり、時間分散するなどが考えられます。とりわけ、最近の世界情勢は、金融政策や政治イベントなど値動きが大きくなりやすいため、リターンだけでなくリスクを意識した投資を考えてみてはいかがでしょうか。



* 統計上は、1標準偏差の範囲に全データの68%が分布します。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

□当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託の仕組みについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。□投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



2016年7月29日

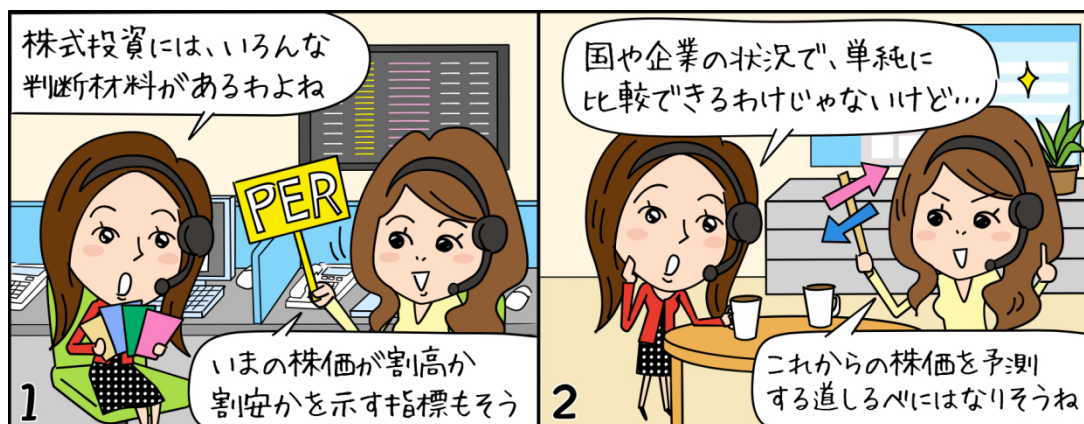
コールセンターからの小さなよみもの



Vol.90

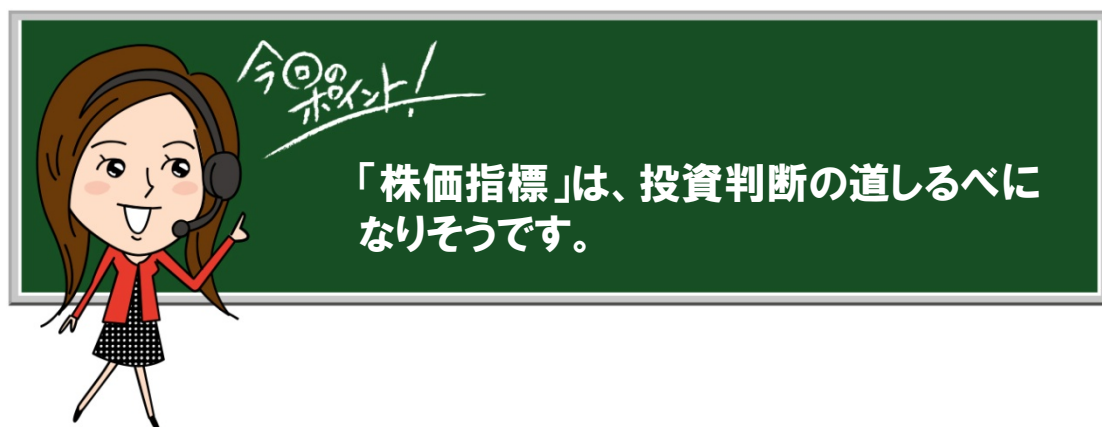
株価
指標

割高・割安を判断する「PER」と「PBR」



株式投資で得られる収益には、株価の上昇(キャピタル収益)と配当金(インカム収益)があります。しかし、株価が将来上昇するかどうかを予測することは、なかなか難しいですよ。そこで、現在の株価が割高か割安かを判断するモノサシとして、「株価指標」を参考にすることができます。

そこで今回は、「株価指標」について押さえていただきたいと思います。





コールセンターからの小さなよみもの

「株価指標」の代表的なものに**株価収益率(PER)**があります。PERは、株価を1株当たりの利益で割って算出し、利益に対して株価が何倍まで買われているかを表しています。一般にPERが高ければ割高、低ければ割安と考えられます。

例えば、1株当たりの利益が50円の企業の株価が1,000円だった場合のPERは、 $1,000円 \div 50円$ の20倍となります。

仮にこの企業が今後10%の増益が見込まれている場合、1株当たりの利益は55円となり、株価が変わらず1,000円なら、PERは約18倍に低下します。以前と同じPER20倍を適正な水準と仮定するならば、現在の株価は割安と見なされ、株価は1,100円まで買われることが期待されます。このように将来の利益を踏まえたPERのことを予想PERと言います。PERは、その企業の過去との比較や、同業他社との比較などで用います。また、日経平均株価や東証株価指数(TOPIX)などの株価指数でも予想PERが算出されています。

PERは、株価の下落か1株当たりの利益の上昇によって低下します。しかし、1株当たりの利益が減少したにもかかわらずPERが低下する場合があります。例えば、2015年12月末の日経平均株価の予想PERは約15.57倍(日経平均株価19,033円、1株当たりの予想利益1,222円)でしたが、2016年6月末時点では約13.01倍(同15,575円、1,197円)に低下しました。このように1株当たりの利益が減少した場合でも大幅な株価の下落によってPERが低下することがあり、これを投資機会と捉えることもできます。

また、企業の資産価値と株価との関係を表わすものに**株価純資産倍率(PBR)**があります。ここでいう資産価値とは、帳簿上の会社の解散価値を表わす純資産です。PBRは、株価を1株当たりの純資産額で割って算出し、その結果が1倍ならば株価が解散価値と等しいことを意味し、それを下回ると解散価値よりも株価が割安に置かれていることを意味します。

株価が割高・割安に置かれている背景を確認しつつ、「株価指標」を長期的な投資の道しるべにしてみてもいいかもしれません。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00



2017年2月28日

コールセンターからの小さなよみもの



Vol.97

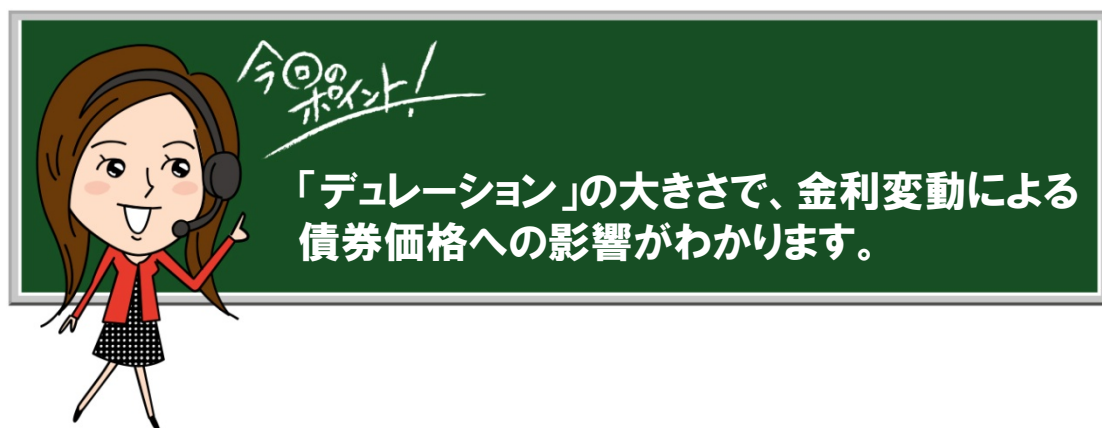
デュレーション

金利変動に対して どれだけ債券価格は動くのか？



米国の金利上昇によって、債券価格の動きに気付かされた方も多いのではないのでしょうか。金利変動に対してどれだけ債券価格が動くのかを見るための指標として、「デュレーション」があります。

そこで今回は、「デュレーション」について押さえていただきたいと思います。





コールセンターからの小さなよみもの

一般に、金利が上がると債券価格は下がり、金利が下がると債券価格は上がります。その金利変動に対してどれだけ債券価格が変動するのかを見るための指標がデュレーションです。

デュレーションは、年単位で表します。残存期間(債券の満期までの期間)と非常に似ているものですが、デュレーションは残存期間に加え、受け取る利子(利率)も考慮して計算されます。たとえば、残存期間が同じ債券であれば、利率が高い債券の方がデュレーションは短くなります。

金利変動に対してどれだけ債券価格が変動するのかは、概ね次の計算式で導き出すことができます。

$$\text{「債券価格の騰落率」} = -(\text{「金利変動」} \times \text{「デュレーション」})$$

たとえば、デュレーション5年の債券であれば、金利が1%上昇すれば債券価格は5%下落すると計算できます。つまり、デュレーションの値が大きいほど、金利変動による債券価格の振れ幅が大きくなるということです。

同じ発行体の債券であれば、一般にデュレーションの長い債券の方が短いものより利回りが高い傾向にあります。せっかく高い利回りを狙ってデュレーションの長い債券に投資したとしても、金利上昇局面では債券価格の値下がり、トータルでは損失が出てしまう可能性があります。ただし、金利上昇が緩やかであれば、債券から得られる利子収入が債券価格の下落によるマイナス分を上回る場合もあります。

債券に投資する投資信託のマンスリーレポートには、デュレーションを記載しております。ぜひ参考にしてみてください。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

- 当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託の仕組みについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

nikko am

コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00



facebook



で、経済、投資の最新情報をお届けしています。